な　ぎ　な　た

専門委員長　髙　木　　愛

なぎなた競技は新型コロナウイルス感染拡大の影響により，県総体やインターハイなど多くの主要大会が中止となりました。徳島県内で唯一なぎなた部を有する鳴門高校では，3年生が後輩たちの指導に力を注ぎ，少しでも技術力を高めようと，選手たちが稽古に励んでいました。

さて今年は漫画『鬼滅の刃』の空前の大ヒットとともに，刀といった日本古来の武器にも注目が集まりました。そこでなぎなたのルーツを探ってみることにしました。全日本なぎなた連盟によると，なぎなたとは，簡単に言えば装束や試合方法は剣道とよく似ており，武器として剣道の竹刀の代わりに約2メートルのなぎなたを使用する競技とのことでした。その歴史は古く，絵巻物や物語によると10～11世紀頃の合戦には武器として使用されていました。しかし鉄砲が伝来して戦闘方法が著しく変化したことからなぎなたは急速に衰退し，江戸時代に入ると武士の装飾的な武具またはその子女の護身用として用いられるようになりました。また，なぎなたは武家に嫁ぐ嫁入り道具の一つでもあったため，現在も女子が主流の競技となっています。その後江戸時代の間に各種の流派に分かれ，形式化されていきました。現在では国内で国体やインターハイでもなぎなた競技が実施されているほか，国際的には日本を含む13か国が国際なぎなた連盟に加盟し，4年に1回世界大会も開催されるようになっています。

対外試合を実施しにくい状況のもと，選手たちは2021年3月開催予定の全国高等学校なぎなた選抜大会に向けて目標を設定し，モチベーションを維持しつつ日々の稽古に取り組んでいます。また休日は徳島県なぎなた連盟の皆さまにも継続的にご指導いただいています。この期間に他県の選手に立ち向かえる力を身につけ，各種大会再開後にはぜひ努力の成果が現れますよう，期待しています。